
■■■■ ■ ■ ■■■■ 利 用 教 育 委 員 会 通 信
■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ 日 本 図 書 館 協 会 図 書 館 利 用 教 育 委 員 会
■■■■ ■■■■ ■■■■ JLA The Committee of User Education

- ・「〈CUE〉利用教育委員会通信」は日本図書館協会図書館利用教育委員会
がニュースをお伝えするメールマガジンです。
 - ・〈CUE〉は **Committee of User Education** の頭文字です。英語の「cue」
はスタートの合図の意。利用教育の普及への願いを込めた誌名です。
 - ・本誌は等幅フォントでご覧ください。
 - ・利用教育関連の情報をお寄せください。本誌へのご意見やご要望もお待ち
しています。 cue@jla.or.jp
-

□ 目次

- (1) 第 102 回全国図書館大会 東京大会 (第 13 分科会 利用教育) のご案内
 - (2) 第 20 回図書館利用教育実践セミナー (in 東京) のご報告
 - (3) 編集後記
 - (4) 図書館利用教育委員会委員
-

- (1) 第 102 回全国図書館大会 東京大会 (第 13 分科会 利用教育) のご案内

館種を超えた情報リテラシー教育の枠組みづくりに向けて
—先駆的事例から考える図書館の新しい役割—

■日時：2016 年 10 月 16 日 (日) 13:30-17:00

■会場：青山学院大学 青山キャンパス 17 号館 4 階 17401 教室

<http://www.aoyama.ac.jp/outline/campus/access.html>

■主旨：

当分科会の企画・運営にあたる日本図書館協会図書館利用教育委員会では現在、情報リテラシー教育に果たす役割を俯瞰的に提示する枠組みづくりを進めています。情報リテラシーは幼児期から高齢期まで生涯にわたる「社会を生き抜く力」です。近年、高大接続、キャリア教育、職場体験などをめぐって館種を超えた実践がみられます。そこで、情報リテラシー教育に対して図書館界全体として何ができるか、すべきかについて、当委員

会委員により話題提供や問題提起を行います。そして、参加された皆様の勤務館における事例や課題を共有する「場」を設定し、館種を超えた情報リテラシー教育の枠組みを共に考えます。

■プログラム：

- ・ 13:30-13:50 開会挨拶・趣旨説明
「館種をこえた情報リテラシー教育の枠組みづくりについて」(仮)
野末俊比古(青山学院大学教育人間科学部)
- ・ 13:50-14:40 「高大接続する学力ー情報リテラシーのカギは問う力と
レポートにあり!!ー」
天野由貴(椋山女学園大学図書館)
- ・ 14:40-15:00 「“小大連携”の試みと学校図書館活用データベース(仮)」
中山美由紀(東京学芸大学附属小金井小学校)
- ・ 15:00-15:15 休憩
- ・ 15:15-15:45 「日本図書館協会中堅ステップアップ研修(2)「情報リテ
ラシー支援」を通して公立図書館における情報リテラシー
支援の課題を考える」
石川敬史(十文字学園女子大学)
- ・ 15:45-16:15 「公立図書館の実践事例集に見る情報リテラシー教育(支援)
の取り組み」
春田和男(東京家政大学人文学部)
- ・ 16:15-16:45 ショートプレゼンまたはグループワーク
- ・ 16:45-17:00 総括・事務連絡・閉会挨拶
- ・ 17:30 懇親会(予定)

※プログラムは変更になる場合があります

■参加される皆様へのお願い

勤務館での事例や課題を簡単にお話いただき、共有する場を設定いたします。積極的なご発言、ご協力をよろしくお願いいたします。

(2)第20回図書館利用教育実践セミナー(in 東京)のご報告

情報リテラシー教育の理念と実践について考えるセミナーを開催
ー館種を超えた学びの機会にー

春田和男(東京家政大学)

日本図書館協会（企画・運営：図書館利用教育委員会）は3月13日（日）、同協会にて、標記のセミナーを開催した。今回のテーマは「館種を超えた情報リテラシー教育の枠組みづくりに向けて：図書館で体系的に育む「生きる力」～実践からヒントをつかむ～」である。情報リテラシーは、単なる情報を探索する技術ではなく、幼児期から高齢期まで生涯にわたる「社会を生き抜く力」と位置づけられるものであり、近年、図書館では、高大接続、キャリア教育、職場体験など、館種を超えた実践がみられるようになってきた。そこで、本セミナーでは、情報リテラシー教育について、改めて理念を問いつつ、図書館界全体として何ができるのか、何をすべきなのかについて、注目すべき実践事例を通して考えた。

発表は次の4件である。1)野末俊比古氏（青山学院大学）「国内外における情報リテラシー教育の枠組みをめぐる動向」、2)森いづみ氏（お茶の水女子大学附属図書館）「館種を超えた情報リテラシー教育の可能性 大学図書館の実践から：お茶大の高大接続を中心に」、3)富永香羊子氏（千葉県市川市教育委員会）「生涯学習を視野に入れた学校図書館における情報リテラシー教育の展望」、4)松田ユリ子氏（神奈川県立田奈高等学校学校司書）「生徒の自立した豊かな生活への支援プラットフォームをつくる：神奈川県立田奈高等学校図書館のとりくみ」。

その後、質疑応答や意見交換が活発に行われた。今回のセミナーには、各館種の図書館職員など41名が参加し、異なる館種から学ぶところがあった、などの声が聞かれた。

(3) 編集後記

第88号をお届けします。前号から発行の間隔が空いてしまいまして、申し訳ありません。今号では、今週末に開催する全国図書館大会の第13分科会のご案内を掲載しました。皆様のご参加をお待ちしております。

（春田）

(4) 図書館利用教育委員会委員

（委員長）

野末俊比古：青山学院大学教育人間科学部

(委員)

天野 由貴：梶山女学園大学図書館

石川 敬史：十文字学園女子大学

春田 和男：東京家政大学人文学部

福田 博同：跡見学園女子大学文学部

(事務局)

久保木いづみ：日本図書館協会事務局

〈CUE〉利用教育委員会通信 第88号(26巻1号) 2016.10.11 発行

・バックナンバー：<http://www.jla.or.jp/cue/>

・配信登録・変更・解除・お問い合わせ：cue@jla.or.jp

※本誌は Gmail を使って発行していますが、日本図書館協会および当委員会、ならびに本誌の内容と Google とは関係がありません。
